

# コミュニティ いばらき

## 女性特派員 リポート

訪問診療に向かう国民健康保険美和診療所の薄井先生に同行しました  
 ①時には徒歩での訪問もあります  
 ②地域の人たちに頼りにされています  
 ③訪問診療の様子



特派員：清宮 東子

# 医師不足を解消します

医師不足が深刻になっている中、県では医師確保のために、医療機関や大学などと連携を取りながらさまざまな事業を行っています。医師不足を解消し、県内のどの地域でも安心して医療が受けられる体制づくりが進められています。

## 医師確保総合対策事業

県では医師不足を解消するために、平成十八年四月に設置した「医師確保支援センター」を中心に、県内の医療機関で勤務・研修することが魅力的になるような対策を総合的に取り組んでいます。

将来、県内の医療機関に勤務する意思のある医学部進学者に、修学資金の貸与制度を設けたり、「いばらき地域医療研修ステーション」では、医学生、研修医やUターン希望の医師の研修の場を提供したりしています。また、研修医の受け入れ促進のほか、女性医師がキャリアを中断することなく働き続けられるような環境づくりを支援するため、医師の子育て支援奨励金や女性医師ネットワークの構築も進めています。

そのほか、地域医療を担う医師の養成を目的とした自治医科大学の卒業医師を医師不足地域に派遣しています。今回は医師の数が、不足している地域での取り組み、不足している診

療科（小児科、産婦人科、麻酔科）の後期研修医受け入れの取り組みを取材しました。

## 拠点病院と診療所の連携

茨城県北西部は、最近まで県内でも医師数が極端に少ない医療過疎地域でした。その解消のため、住民の要望に応じて一年半前に開設されたのが常陸大宮済生会病院（常陸大宮市）です。以前は救急患者や重症患者は、水戸市や日立市の病院に依存していましたが、今では市内への救急搬送患者の約九割を受け入れ、入院患者数も常時約九十人となっています。

医師確保について伊東統一院長に尋ねると、「当院にとっても難題ですが、県北西部の医療を担う拠点病院として、また診療所の支援という点からも、医師数を増やしていきたい。特に高齢者が多い地域なので、ひざや腰の病気の診療・手術に対応できる整形外科の常勤医師確保も急務です。医師の確保に努めて、さらに充実した医療のために努力していきます」と、

### 拠点病院



常陸大宮済生会病院  
診療所との連携で  
県北西部の地域医療を  
支えています。

### 連携

### 診療所



常陸大宮市国民健康保険美和診療所  
拠点病院との連携で  
適切な医療を  
提供できます。



第23回国民文化祭・いばらき2008  
平成20年11月1日(金)～9日(日)

国内最大の文化・芸術の祭典を  
11月1日から9日間茨城県で開催!!

国民文化祭は、全国各地からさまざまな分野の文化活動を行っている人々が集い、交流する、国内最大の文化・芸術の祭典です。

今回、大会マスコット「ハッスル黄門」取材しました。期間中、県内各地で音楽や演劇などの「分野別フェスティバル」が開催されます。また、地域の特色により設定した12の文化圏では、県北海岸地域の「うたの浜辺文化祭典」などの「広域文化交流事業」が、今回初めて開催されるそうです。ハッスル黄門もたくさんの方にきてほしいと意気込んでいました。

国民文化祭を通して、県内文化を再発見し、全国トップクラスの芸術・文化に触れてほしいと思います。  
(青木牧子)



県国民文化祭推進室  
☎029(301)2838 ㊟2849  
🌐http://www.kokubun2008.pref.ibaraki.jp/

## 医師修学資金貸与者募集

本県の出身者で、県外の医学部に進学している医学生に修学資金を貸与します。

募集学年等 ● 募集学年：平成20年4月に入学した1年生および編入学生  
● 募集人員：10人程度

貸与額 月額10万円

返還免除 貸与を受けた期間と同じ期間、県内の医師が不足する地域の医療機関で勤務した場合、返還が免除されます。

募集期間 平成20年4月1日(火)～22日(火)  
※当日消印有効

面接 平成20年4月27日(日)  
県立図書館会議室3

## 「いばらき女性医師ネット(仮称)」 会員募集

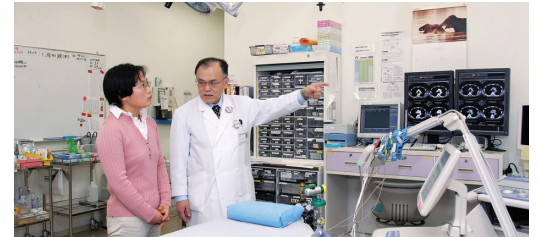
女性医師向け情報提供や会員間の情報・意見交換などを目的とした「いばらき女性医師ネット(仮称)」の会員を募集します。会員登録にはi-doctor登録が必要となります。

詳しくは下記まで。

県医療対策課 医師確保支援室  
☎029(301)3191 ㊟3199  
✉i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp  
🌐http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html

この常陸大宮済生会病院と連携をしているのが、常陸大宮市国民健康保険美和診療所です。この診療所に、県から派遣されている自治医科大学卒業医師の薄井尊信先生にお話しを伺うと、「診療所の良さは、患者さんとのコミュニケーションが取りやすいこと。一カ月に七十件ほどの訪問

心強い答えが返ってきました。常陸大宮済生会病院は、地域の拠点病院として、診療所や救急隊との連携を取り、症例検討会や救急処置などを共に学ぶ場も提供しています。



「安全で高度な先進的医療を提供しています」と伊東院長(右)

日々充実した医療を提供したいという薄井先生の励みは、「大変だね、無理しないでよ」という患者さんの言葉だそうです。今後は、地域に予防・健康医学を普及させることも目指しています。

地域医療の現場を知ることができ、温かい気持ちになりました。

診療では、患者さんだけでなく、ご家族や身の回りのことも知りながら治療ができます。大変なことは、医師が私だけだということ。一人で判断をしなければならぬことへのプレッシャーが常にありますが、常陸大宮済生会病院との連携のおかげで、代診をお願いしたり、迷ったときは相談したりもしています。症状が重い患者さんを連携して診察することで適切なケアもできます。理想的な地域医療のあり方だと思います」とのことでした。

## 期待される後期研修医\*

筑波大学附属病院の後期研修医である鈴木涼子先生は、現在、県立こども病院の小児科に勤務しています。

「この病院で診療をし、大学では学ぶことのできない経験をたくさんしています」と話す鈴木先生は、現場での責任の重さを痛感する毎日だそうです。同時に、「赤ちゃんであっても意思表示は必ずしているのです。訴えてくるものを見逃さなければ大丈夫」という自信もついたとのこと。

女性の立場で、今後医師を続けるために必要なことは何かと伺ってみました。「医師不足で、一人一人にかかる負担が大き過ぎます。勤務時間、休日の確保といった体制づくりが必要なんです。また、診療が必要かどうかを保護者の方が見極めるために、

子どもの病気の症状について学ぶ機会をつくることも大切だと感じています」とのことでした。

厳しい労働をいとわず、患者のために尽力されている医師の姿に、頭の下がる思いがしました。医療機関・行政・県民がそれぞれの立場でできることを模索し、特に不足している小児科、産婦人科、麻酔科の後期研修医の受け入れを促進し、誰もが充実した医療を受けられる体制づくりをすることが急務だと感じました。



筑波大学附属病院後期研修医 鈴木先生(右)

\*後期研修医:2年間の臨床研修を終了し、研修病院のプログラムにより各専門診療科の研修を行う医師。